

日本人学生にとって「議論」とは何か

井上, 奈良彦
九州大学言語文化部

<https://doi.org/10.15017/5466>

出版情報：言語文化論究. 10, pp.33-50, 1999-03-01. 九州大学言語文化部
バージョン：
権利関係：

日本人学生にとって「議論」とは何か¹

井上 奈良彦

要 旨

日常の言語事象の中に「議論」というものがある。これは、日本語及び日本語文化を共有する者にとって、他の言語事象と区別して認識することができるものである。それは、「田中と話をしているうちに議論になってしまった」とか、「加藤と山本の話は議論になっていない」というような表現にも現れている。本研究では、日本人大学生を対象とした日常の言語活動に関する調査や実験から、彼らにとって「議論」とは何であるかを考察した。他の文化との比較として、アメリカにおける日常生活での argument とは何かを特徴づけようと試みている Jackson, Jacobs, O'Keefe, Trapp などの研究を参照した。

1. 序 論

日本人は論理的な議論が不得意だとか日本語は論理的な言語ではないといったことが、日本人によっても日本人以外からも指摘されている。もちろん、これは「論理」ということを特定の考え方に限定してしまうことから生じる偏見である。もしどのような種類の「論理」も存在しないのなら、日本社会の様々なところが大混乱に陥るはずである。法律、科学技術、教育、といった分野において制度や人間のコミュニケーションが機能しているのは、なんらかの「論理」が存在するからである。言語についても、英語やフランス語といった西洋の言語は論理的でそれから違っている言語は論理的でないというのは、これもまた偏見と言えるであろう。ここで重要となることは、日本の文化や言語の中で働いている論理のパターンを発見することである。そういった研究の一部として、ここでは日常の言語を主としたやり取りの中でどのような会話が「議論」と呼ばれるのか、「議論」とはどういう特徴を持っているのかを分析することにした。

日本語の「議論」についての印象的な記述や規範的な規定は少なからず見られるが、実証的な研究は見当たらないようである。一方、英語を母語とするアメリカ人にとってどのような会話のやり取りが argument と認識されるのかを調べた研究がいくつかある (Jacobs & Jackson 1982; Jackson, Jacobs, Burrell, & Allen 1986; Trapp 1986)。彼等は O'Keefe (1977) の論に基づいて argument₁ (“making an argument”と言う場合、つまり主張に対する理由を述べている場合) と argument₂ (“having an argument”と言う場合、つまり意見の対立がある場合) を区別している。Jacobs & Jackson (1982) は典型的な argument はその両方を含んだもの、つまり対立があっても理由を述べている場合だと提唱している。

Trapp (1986) は文字化した会話を学生に分類させる実験から、対立があって理由を述べている場合よりも対立があって理由を述べていない方が argument と認識されやすい、という結果を得ている。さらにこの調査から典型的な argument の特徴として次の5点を抽出している。

- (1) 顕在化した対立。
- (2) 対立が解消していない。
- (3) 二者が対立を示している。
- (4) 互いの目的が相入れない。
- (5) 言い争う意志がある。

また、学生が会話のやり取りを argument と名付けるかどうかについて考えた時 Trapp (1986, p.31) は、argument という単語は悪いイメージがあるため他の名前を付けることができるならそちらを選ぶ傾向があるという仮説を立てている。

Trapp の研究に対して Jackson et al. (1986) は同じ会話を用いて学生の反応を調べ概ね同じ結果が得られたが、次の点で異なっていると報告している。(1)対立が解消するかどうかは余り学生の判断に影響しない。(2)話し手が理由を述べているかどうかは判断に余り影響しない。

日本語で argument に対応するのは「議論」であろう。「議論」というものは、日本語及び日本語文化を共有する者にとって、他の言語事象と区別して認識することができるものである。それは、「田中と話をしているうちに議論になってしまった」とか、「加藤と山本の話は議論になっていない」というような表現にも現れている。辞書では次のような定義が一般的である。「互いに、自己の意見を述べ、論じ合うこと。意見を戦わせること。」(『国語大辞典』p.697) この定義からは、「参加者が意見を述べている」ということが特徴であるということしかはつきりしない。「論ず」ということから「理由」を述べていると推察することも可能である。これは英語の making an argument に対応する。「戦わせる」ということから「対立」も特徴として考えてよいだろう。これは having an argument に対応する。さらに、漢語である「議論」は、漢語の多くがそうであるように改まった場面や固い話題と結びつきやすいであろう。では、どのような特徴が現れた時日本人は「議論」が行われていると認識するのであろうか。今回の研究では、大学生に対して一連の調査を行うことによって、彼らはどのような会話を「議論」と呼ぶのかを調べた。

2. 実験方法

「議論」と名付けられそうな会話を集め、それについて学生がどのような名前を付けるかと、どのような特徴がその会話に現れているかを調べた。

2.1. 材料

学生が「議論」と考えるような会話を集めるため1990年9月に福岡教育大学の外国語科目の英語の授業中に次のような指示を与えて会話を書かせた。

誰かと議論した時のことを思い出してください。そのときの状況（誰としたか、話し方、内容、等）を詳しく書いてください。それから、その時の会話を思い出して書いてください。もし、議論したことがなければ、そういった状況を想像して書いてください。

得られた結果のうち、実際の会話を書いているもの28篇を採用した。状況を示す説明がある場合はその文章を残した。会話や文章の中から話の種類の名前を表わすような言葉（「議論」、「話し合い」等）は削除し、発話者の名前は、田中、山本といったありふれた名前を用いた。（末尾の付録1にすべての会話文を掲載した。）

集まった会話を見せながら数名の学生に「議論」をしているところかどうかについて意見を聞いた。集めた会話は自分が議論をした時という設定で書かせたものであるが、必ずしも「議論」とは言えない様なものまで含んでいる。学生達の反応などを参考にして次の特徴を取り出した。

- a. 話題は固いものである。
- b. 参加者は自分の意見を言っている。
- c. 参加者は自分の意見の理由を言っている。
- d. 意見の対立がある。
- e. 意見の対立がある場合、それは最後まで残っている。
- f. 参加者の利害の対立がある。
- g. 利害の対立がある場合、それは最後まで残っている。
- h. 参加者は感情的になっている。
- i. 参加者の立場（身分）は対等である。

2.2. 手順

学生に対する会話の提示方法は、ワープロで印刷したものを黙読させるのと、それを学生にテープに吹き込んでもらったものを聞かせるのと、二通り行った。1991年5月、外国語科目の英語を受講する学生（元の会話文を書かせたのとは別のクラス）に授業中28篇の会話文を提示して次の質問に筆記回答してもらった。質問毎に別々のクラスで実施した。

質問1.（名前・黙読・自由回答・議論を含む）福岡教育大学で実施

それぞれは、どんな種類の会話ですか。特徴をよく表わしている言葉を考えてください。話をしている人達は「議論」をしているのですか。「議論」をしているのでないなら、何をしていますのですか。たとえば、「話し合い」「口論（けんか）」「相談」など。

質問2.（名前・黙読・自由回答・議論なし・討論を含む）福岡教育大学で実施

各々の会話はどんな種類の会話ですか。特徴を表わすのに一番適切な言葉を考えてください。たとえば、「口論」「相談」「討論」「話し合い」など。

質問3. (名前・黙読・自由回答・議論・討論なし) 九州大学で実施
 各々の会話はどんな種類の会話ですか。特徴を表わすのに一番適切な言葉を考えてください。たとえば、「口論」「相談」「討論」「話し合い」など。

質問4. (名前・黙読・○×回答) 福岡教育大学と九州大学で実施
 別紙の会話について、議論をしているところかどうか判断してください。議論なら○、議論でないならば×、判断できなければ?、を下の回答欄に記入してください。

質問5. (名前・聴取・○×回答) 福岡教育大学で実施
 テープから聴こえてくる会話について、議論をしているところかどうか判断してください。議論なら○、議論でないならば×、判断できなければ?、を下の回答欄に記入してください。

質問6. (特徴・黙読・○×回答) 福岡教育大学で実施
 1から28までの会話は、以下の特徴にどの程度当てはまりますか。非常によく当てはまる場合は○、ほとんど当てはまらない場合は×、どちらとも言えない場合は?、を記入してください。

- a. 話題は固いものである。
- b. 参加者は自分の意見を言っている。
- c. 参加者は自分の意見の理由を言っている。
- d. 意見の対立がある。
- e. 意見の対立がある場合、それは最後まで残っている。
- f. 参加者の利害の対立がある。
- g. 利害の対立がある場合、それは最後まで残っている。
- h. 参加者は感情的になっている。
- i. 参加者の立場(身分)は対等である。

3. 結果と考察

3.1. 質問1

「議論」と答えたものが何名いたか、何種類の異なる名前が付けられたか、さらに、多くの回答があった名前を上位3番目までその数と共に示した(表1—表はすべて末尾の付録2に掲載した)。過半数の学生が「議論」と答えたのは#1と#4だけであった。「議論」が最も頻度の高い名前として選ばれたのは12であった。学生が回答した名前の種類が多いもの(#11、12、13、16、24、28など)は何をしているところか、どんな種類の会話か決めかねるようなものであったということになる。選択肢として例示した以外の名前が多く見られたのは、#19(説得)、#20(説得)、#26(別れ話)である。

3.2. 質問2

「議論」のかわりに「討論」を選択肢として与えると、「議論」という名前は全く回答に現れなかった(表2)。質問1での「議論」の頻度と質問2での「討論」の頻度は非常に高い相関(スピヤマンの順位相関 $R = .90503, p < .00001$)を示している。学生は「討論」と「議論」は同じ様な会話のやり取りを指すと考えていることがわかる。徳川・宮川(1972, p. 138)は、「討論」は「議論」と大体同じ意味だがより形式のととのった場で行われるもので家庭内でのやり取りのようなものは「討論」とは言えない、としている。これは、一般的には当てはまりそうだが、今回の調査で見ると、学生は意味的に「議論」と「討論」がほぼ同じものを指すと考えているようである。

3.3. 質問3

選択肢に「議論」も「討論」も与えなかった場合は「議論」と回答する学生は非常に少なくなった(表3)。ここでは「雑談」というあいまいな範疇を選択肢に加えておいたところ、それを選んだ学生が非常に多くなった。異なる名前の種類の数が質問1、2と比べて少なくなっているのは、1、2では何と名前を付けてよいかわからないためにいろいろな名前を学生が思い付いたのに対して、ここでは名付けにくいものは「雑談」という回答を引き出したと考えられる。

3.4. 質問4

回答のうち○(「議論」をしていると判断)の数とその割合(%)を表4に示した。この質問は2つの大学で実施したが、両グループの回答は高い相関を示している(スピヤマンの順位相関 $R = .87763, p < .00001$)。2つのグループ両方で、過半数の学生が「議論」と判断したのは、#1、4、7、11、15、16、18、28の8つの会話である。

3.5. 質問5

回答のうち○(「議論」をしている)の数とその割合(%)を表4に示した。黙読させた場合の5グループの回答とテープを聞かせた場合の1グループの回答には概ね高い相関があった(それぞれ、スピヤマン順位相関 $R = .66841, p = .0001$; $R = .76443, p < .00001$; $R = .45791, p = .01427$; $R = .78038, p < .00001$; $R = .72564, p < .00001$)。ただし、#10、17については、黙読させた時はあまり「議論」と認識されなかった(「議論」と判断する学生は20~30%)が、テープを聞かせる提示方法では過半数の学生が「議論」と判断している。#10については、話し方の調子がかかなり影響している可能性がある。また、意見の対立は厳密にはないのだが聞いただけでは意見の対立が有るように思われ、それが影響している可能性もある。#17については、やはり意見の対立はないが、「けど」といった言葉などから意見の対立が有るように思われたのかもしれない。また、話題が実験当時論争になっていた湾岸戦争についてであり、かたい時事問題ということが判断に影響しているという推測もできる。

3.6. 質問6

各特徴が現れているかどうかについて、他の質問で「議論」(質問2では「討論」と認

識した数と各特徴の認識度（○をつけた人数）とのスピヤマンの順位相関を計算したところ、有意な相関を示している特徴は多くなかった。特徴 f（利害の対立がある）が「議論」「討論」と名付けた数とやや負の相関があった（質問 1 と質問 2 でそれぞれ、 $R = -.43410$, $p = .02099$; $R = -.46906$, $p = .01180$ ）。つまり、利害の対立があると「議論」と認識されにくいという結果が出た。

また、○×式の質問に対する回答と次の特徴がいくぶん相関を示した。意見を述べている（特徴 b）かどうか（九州大での黙読グループとテープ聴取グループでそれぞれ、 $R = .43415$, $p = .02098$; $R = .40588$, $p = .03211$ ）。意見の対立がある（特徴 d）かどうか（黙読の両グループでそれぞれ、 $R = .44875$, $p = .01661$; $R = .59555$, $p = .00083$ ）。意見の対立が続いている（特徴 e）かどうか（○×回答の 3 グループでそれぞれ、 $R = .58895$, $p = .00098$; $R = .64268$, $p = .00023$; $R = .39263$, $p = .03876$ ）。

意見を述べているかどうかについては提示したほとんどの会話文が持っている特徴なので、「議論」が成立するための必要条件になると考えられる。全ての会話が元々「議論」を思い出して書くようにという指示に基づいたものであるから、「議論」の必要条件を満たしているのは予想されることである。これはまた、辞書の定義とも対応する。さらに、意見の対立とその継続が「議論」を特徴づける要因であることがわかる。

スピヤマンの順位相関の分析では、話題の硬さ、理由の有無、感情的かどうか、参加者の平等性、は会話のやり取りが「議論」と認識されるかとの関係がないように思われる。

3.7. 「議論」と「非議論」

質問 1 から 5 までに共通して「議論」と認識されやすかったのは #1、4、7、11 である。逆にほとんど「議論」と認識されなかったのは #2、6、22、23、26、27 である。この 2 つの明らかな「議論」「非議論」と残りの「議論かどうかわからないもの」という 3 つのグループに分けてどんな特徴が関係しているのかを考察してみる。

明らかな「議論」と分類した 4 つの会話は、ほぼ共通して、「理由の表明」と「意見の対立」が現れている。#4 は、学生にはあまり対立があると認識されていないが、これは、会話の初めで基本点での合意が表明され、「そうですね」という同意表現も使われているからであろう。後半では、2 人の間に意見の対立が見られる。#7 は、理由を述べているとは学生に認識されていない。強いてあげれば、「被害者の娘だ」という意見に対して「被害者は別の人間にゆすられとって」というのが相手の意見に対する反対理由と考えられる。

「非議論」と分類したものにほぼ共通するのは、対立がないという点である。全く対立がないとは言えないが、学生には対立があるとは認識されていない。#2 は進路の「相談」という名前が明らかなのでそちらが回答に現れやすかったと考えられる。

ここで、「対立」ということについてもうすこし考察を加えたい。質問 6 では、「意見の対立」と「利害の対立」という 2 つの項目を立てたが、もう少し正確に言えば、「自分の行動についての対立」と「自分の行動に関係しないことについての対立」ということになろう。後者がいわゆる「意見の対立」として「議論」を特徴づけるものである。つまり、参加者の自分の行動については「議論」と言わず、「説得」(#19、20) や「相談」(#2、6、22) という言語活動として認識されるわけである。このことは、今回の調査の中では「利害の対立」（特徴 f）とやや負の相関があることにも現れている。また、辞書的定義で

は、「意見を戦わせる」という時「意見」とは第三者の話題についてのものであると考えられる。

「口論」という回答が多かった#3、14、15は対立が非常に強い形で現れているため「議論」ではなく「口論」と認識されたのであろう。そのうち、#3、5は「議論」という回答もかなりあったが、#14ではなかった。ここにも、「参加者の行動についての対立」かどうか反映していると推測できる。

4. 結 論

日本人大学生にとって最も「議論」と認識されやすいのは、参加者の行動以外のことがらについて意見の対立がありそこに理由も表明されている会話のやり取りということがわかった。ただし、何を「議論」と呼ぶかは個人差も大きいし、「議論」と呼ぶか呼ばないかははっきりしないような会話も数多くある。はっきりと他の名前では呼ぶことができるもの（「説得」、「口論」、「相談」など）は「議論」とは呼ばれない。理由の表明よりも、意見の対立の方が「議論」と認識されやすさに強く関係しているという結果が出た。

本稿の序論で紹介したアメリカでの研究と比較すると、アメリカ人学生に argument と認識されるやり取りと日本人学生に「議論」と認識されるものとは「対立」「理由の表明」という点では似通った結果が出た。ただし日本人の場合、参加者自身の行動が話題になっているやり取りは「議論」と認識されにくい。argument の場合、Trapp (1986) のあげている典型例のいくつかは明らかに参加者の行動についての対立が見られる (p.33)。このことは、日本人が自分や相手の不利益を生むような議論を避けたがる (たとえば、水谷 (1979, p.82)) 傾向と関係があると推測できる。回答者の心理の中に「こういうことは議論したくない」という気持ちから「こういうことを議論と呼びたくない」という気持ちへの移行があったのであろう。

「議論」を成り立たせる必要最低条件は「意見の表明」であると考えられる。ただし、必ずしも意見が対立しなくてもかなりの場合「議論」と認識される例もある (#17)。このあたりも対立を前提として argument を認識しているアメリカ文化と参加者の意見が対立していることを前提として「議論」を考えていない日本文化の差が出ているのかもしれない。

注

¹この論文は日本コミュニケーション学会第21回年次大会 (1991年6月29日、尚絅女学院短期大学) において口頭発表した原稿を修正したものである。

引用文献

- 『国語大辞典』(1981)。東京：小学館。
徳川宗賢・宮川達夫 (編) (1972)。『類義語辞典』。東京：東京堂出版。
水谷修。(1979)。『日本語の生態一内の文化を支える話しことば一』。東京：創拓社。
Jacobs, S. & Jackson, S. (1982)。Conversational argument: A discourse analytic

- approach. In Cox, J. R. & Willard, C. A. (Eds.), *Advances in argumentation theory and research* (pp.205-237). Carbondale: Southern Illinois University Press.
- Jackson, S., Jacobs, S., Burrell, N., & Allen, M. (1986). Characterizing ordinary argument: Substantive and methodological issues. *Journal of the American Forensic Association*, 23, 42-57.
- O'Keefe, D. J. (1977). Two concepts of argument. *Journal of the American Forensic Association*, 13, 121-128.
- Trapp, R. (1986). The role of disagreement in interactional argument. *Journal of the American Forensic Association*, 23, 23-41.

付録 1. 実験で提示した会話文

1

夜、寮の友達の前に行って、『究極の選択』という雑誌を見ての女子学生二人の話。こんな質問があった。

自分の好きな人が罪を犯して罰を受けることになった。あなたはどちらがいいですか。

a. 自分の名前を叫びながらライオンに食べ殺される。

b. 自分の嫌いな金持ちの女と結婚する。

田中：自分の好きな人が、嫌いな奴と結婚するところは見たくないし、好きな人が自分の名前を呼んで死んだ方がいい思い出になる。

山本：でも、好きな人は生きていてほしい。会えなくなるもん。

田中：生きとってて、会ったらつらいやろ。さっさと死んでもらった方がうれしい。

山本：生きてたらいつでも会えるけど、死んだらおしまいよ。それに好きな人には死んで欲しくない。生きていてだけでいい。

田中：ばかね。自分の名前を叫んで死なれた方が、あーあの人は私のこと好きやったとねって思えるやん。

山本：けど、死んでほしくない。

田中：いや、死んだ方がよかと。

2

高校生が担任の先生と大学を受けるにあたって。

生徒：国立大学を2校受けられるけれども、第一希望の大学だけ受けたいと思います。

先生：せっかく2校受けられるのだから2校受けなさい。

生徒：第一希望の大学に受からなかったら、私立の同じ学部に行きます。

先生：でも、私立はお金もかかるしなあ...

生徒：また親と話し合ってきます。

3

田中さんと山本さんは同じクラブの友達。ユニフォームの決定について、最初は穏やかだが、後に少しけんかごしになった。

田中：コーチは赤のユニフォームは嫌いと言った

ので赤は止めよう。

山本：コーチは赤のユニフォームは弱く見えると言ってた。嫌いとは言っていない。

田中：コーチは赤のユニフォームは弱く見えるから嫌いと言ってたのよ。

4

学生が指導教授と現代の日本の豊かさについて。
教授：現代の日本は使い捨ての時代になっているな。

学生：そうですね。

教授：たとえばわりばしだな。

学生：しかし、わりばしは昔からある日本の文化ですよ。

教授：だけど、わりばしは現在輸入の材料によって作られている。もしわりばしを作らなければ、多くの木を伐採しなくてすむ。

5

学生が指導教授と、プログラムを作るときに求める値の誤差について。

学生：だいたい合っています。

教授：だいたいではいけない。100分の1秒の誤差にしる。

学生：データの保管法自体で100分の1以上の誤差になる。10分の1秒ぐらいにしたい。

教授：距離の変化を考えた時、10分の1の誤差は大きすぎる。

学生：保管法を変えましょう。

教授：そうしろ。

6

田中さんと山本さんは高校の同級生。進路のことについて。

田中：進路決まった？

山本：うん。

田中：先生になりたいんよね。教育学部？

山本：うん。

田中：でも、今、先生になるの難しいんやろ？

山本：うん、でも、昔から先生になるって決めてたから、たとえ先生になれなくても先生に

なる勉強だけでもしたいし。

田中：目標があつていいねえ。

山本：でも考え方が甘いのかも知れない。

#7

田中さんは大学生。友人の山本さんのアパートで、『さすらい刑事』というテレビ番組を見て犯人を当てようとしている。口紅と血のついたハンカチが発見された時。

田中：被告の奥さんがハンカチに関係あると思うな。

山本：えーっ、被害者の娘だと思ふな。

田中：うそ、違うっちゃんあゐ？被害者は別の人間にゆすられとって、それがケバイ女やったとよ。

#8

小学校4年生3人が学校から帰る途中。

田中：ふつうの道とおろー

山本：今日は遠回りして帰ろー

鈴木：うん。

田中：なんでー？通学路じゃないやん。

山本：いいやんね、今日ぐらい。

鈴木：さあ帰ろう。

田中：ちょっと待ってよ。

山本：なんね、いったい。

田中：私はふつうの道、通るけん。

山本：どーしてー？じゃ、ひとりで帰りー。

田中：...

結局、田中さんも他の二人の後について帰りました。

#9

受験生とその母親が私立大学の受験について。

母親：すべりどめ受けてるんだから、わざわざ他の県まで行って受けることないでしょ。

娘：でも、落ちたらどーするんね。

母親：こんなとこ落ちるんなら大学いかんでいい。

娘：そんなこといったって...

#10

大学生（男性）の友人が集まって、女性のことについて。

田中：顔がかわいい方がいい。

山本：胸の大きい方がいい。

鈴木：足首のしまっている方がいい。

渡辺：性格がいい方がいい。

#11

家族の中で、国体に秋篠宮が来ることについて。
長女：いらんこと来んでもいいのに、えらい迷惑や。

母親：そんな事言わんの。

次女：だって迷惑やん。

長女：そーよ。そーじしたり、全部税金でするんよ。ペンキまで塗り替えよったと。

父親：たまには、きれいになっていいやないか。

長女：でも、だれも来ても喜ぶ人とかおらんよ。

次女：別に、歓迎して見に行くわけじゃなくて、物珍しいけ行くだけやん。

長女：そーよ、私は天皇制とか支持せんのやけ。

母親：いーじゃないね。

長女：だめよ、税金のむだ使いやもん。だいたい、あの前髪がいかん。幼稚園生やん、ヒゲもいかん。

次女：皆がちやほやするけ、図にのるったい。

母親：悪いことばっかり言わんの。

#12

昼のメロドラマをみながら。

田中：この男、心をいれかえたっちゃんない。

山本：えー、でも、最初からこんな気がしとった。

鈴木：一番悪いのは父親やない。

渡辺：みんな、これはドラマなんだから。

#13

田中：カレーにキャベツを入れたらとろみが出るらしいよ。

山本：ほんと？

鈴木：うちは牛乳入れるよ。

山本：そんなことせんよ。

田中：うちは、かたくなっとき入れるよ。

#14

娘が親に成績表を見せながら。

父親：なんだこの成績は、こんなんだつたらもう

学校に行く必要なんか無い。

娘：頑張ったんだからいいじゃない。お父さんは勉強しなくてできなかったらおこるけど、勉強をしてできなかったらそれは一生懸命やったあとのことだからおこらないって言ったじゃない。

父親：でも、勉強したというけど、勉強してもこんな成績しかとれないのさ。

娘：だから勉強したけどできなかったっていうでしょ。

#15

大学生の男女二人ずつ。初めは普通に話しているが、だんだん真剣になってくる。

一郎：女は男より劣ってるっちゃんかと。

政彦：うん、そう思う。だって世の中何でも男が上の地位を占めとるぞ。

明子：それって偏見じゃなかと。

一郎：うんにゃ、もともと生まれた時から男の方が女より優れとつと。

明子・蓉子：そがんことなかよ!!

政彦：例えば料理とかでも女の人がしよるけど名コックとかは男やし、ピアニストとかも...

明子：もうやめよう。私だいたい腹立ってきたけん。

政彦：勝手にすれば。

この後すぐそれぞれわかれて、女の子二人は怒って帰ってしまった。

#16

二人の女子学生が。

田中：鈴木先生っていいわよね。顔も声もしぶいし、授業もわかりやすいし。

山本：ええええーなんであんながいいん。私、すっかーん。見る目ないんじゃない。

田中：なしー？どこがすかんの。あーたのが見る目ないんじゃない。

山本：あの目よ目、いやらしい。

田中：なーだってえ？あの目のどこがいやらしいの？ やさしい目よ。

山本：いやらしいとやさしいは紙一重よ。

#17

イラクがクウェートを占領した後、多国籍軍がイラクを包囲したというニュースを見た時。

田中：戦争が始まるかもしれん。

山本：イラクは早く手を引けばいいのに。

田中：けど、米国はこういうときになれば一番いばつとるねー。

山本：仕方ないけど、米国が一番強い軍隊持つとるとやん。

#18

田中：部活動っていうのは、本人の意志で参加するものだから、先輩達からいろいろ言われて入っても何もならないと思わん。

山本：そうそう。俺もそう思うっちゃん。この大学の体育科は少しおかしっちゃんね。

田中：体育科に入ったからといって部活をしなればいけないかと言うとそうじゃないっちゃんね。他にもいろいろしたいことがあるし...

山本：部活をやめるっちいうことは、学校をやめるっちいうことを考えにやいかんげんね。

田中：おれたちは、この大学に部活しに来よるっちゃんいけんね...

#19

山本さん（バレーボール部・女子マネージャー）と田中さん（男性・バレーボール部員）。田中さんはバレー部をやめようとしていた。

山本：もどってきてほしいんよ。

田中：でも、もう俺はやってけないんだよ。あのつらいクラブには...

山本：でもやめてどうするの？

田中：まだわからんけど...

山本：みんなつらいけど、いっしょうけんめいしよるやん。それは自分に負けるとよ。やめたらみんなに会いづらくなるよ。

田中：でも自分で決めたことやけん、人にいろいろ言われて変えることはできんとき。

山本：人の話を聞くぐらいいはよかる（怒って）。もう少し考えてから決心してもおそくなかる。

田中：((無言))

山本：みんなもどってきてほしと思っとるけん。

考え直して。

田中：じゃ考えてみるよ。((黙り込んでしまう))

#20

田中さんの友人の加藤さんが夏休みに部活で家に帰れないとわかって部活をやめたいと言った時。

田中：ぜったいやめん方がいいけー。

加藤：でも入る時は夏休みがあるって先輩が言わしたし、電話を家にしたら、ばあちゃんがかえてきてって泣かすよー。

田中：でもこの夏だけのためにせっかく友達になった8人を失うかもよっ。ぜったい部活をつづけてよかったと思う日がくるし、部活でいっしょにがんばった友達は本当に大切と気づくけん。

加藤：でも、夏休みになったら帰れると思ってきつい練習をがまんしてきたっつ。

田中：もしこの夏帰っても、また、ここに戻ってこないかんとよっ。部活をやめてしまったらもう部には戻れっちゃけん。ぜんぜん休みがないわけじゃないっちゃけん。親とも話して考え直してみいー

加藤：うん...

#21

娘と母親が大学受験について。

娘： 私は地元の大学は受けない。

母親： どうして？

娘： 一人でやってみたいから。

母親： 反対。

娘： ちゃんとする。食事もきちんととるし、そうじ、洗濯もする。

母親： あなたは考えが甘い、そんな簡単にはいかない。

娘： 4年たったら、絶対、地元に戻るから。

母親： ... わかった。

#22

大学生の友達どうしが、サークルに入るかどうかについて。

田中：私、友達の兄ちゃんがサークルの部長して、

義理で入らないといけないのよー。いっしょに入ってー。

山本：いやだー、だって見学に行ったら、おそろしかったね。

田中：みんな、見学に行っただけで、今から新歓だっーて。

山本：だからよ。どっかのレストランまでつれていって。私はチーズケーキとコーヒーたのんだのよ。さいふもってないのに。

田中：私は抹茶パフェ。前にすわっている先輩がストロベリーシェイクたのんで、ストローが2本入っていてすっごく困った。

山本：ハハハハハ、あのへんな男の人がストロベリーシェイク、ハハハハ。

田中：みんな他の先輩と一緒に飲んでやれって。

山本：気持ちわりい。

田中：かわいそうやろ、私。

山本：私、ぜーったい、あのサークル入らないよ。

田中：二人で食い逃げしよう。入らないよね。

#23

大学生の友達同士がサークルに入るかどうかについて。

田中：ねえ、私の友達の兄ちゃんが〇〇部の部長やってて1年の部員がいなくて困ってるんで、義理で入ってあげようと思うんだけど、一緒に入ろー。

山本：おもしろそうだから見学にいこー。
((見学に行った後で))

田中：ちょっとー、びっくりしたね。まだ入るとも言ってないのにノートに名前書かされて、そのまま新歓だよーん。

山本：そうそう、私、どっかの喫茶店でケーキとコーヒーたのんだよ。

田中：私は、抹茶パフェ。おいしかったけどさ、前にすわってたきもちわるい奴がストロベリーシェイクたのんでそれにストローが2本ささってて、私と一緒に飲めっち、他の人が言うんでほんとに困ったんよー。

山本：かわいそー。私、絶対あのクラブ入らんよ。

田中：私も入りたくない。やっぱり二人してやめよーか。

#24

大学生の友達同士が教育について。

田中：福岡の教育庁っておかしいと思わん？

山本：思う。

田中：いいやつを教員にとればいいのに、鈴木み
たいなやつがおるのはおかしい。もっと
他に立派な奴はいるのにな。

山本：うん。

田中：学力だけじゃなくて、人間的な部分をもつ
と一次試験で見るべきと思わん？

山本：そうよね。

田中：それにしても鈴木は勉強したんかね。

山本：きつとコネよ。

田中：そうじゃろうね。

#25

教育大学の学生が酒を飲みながら自分達の将来に
ついて。

田中：お前は何で先生になりたいんか。

山本：子供が好きだから。

鈴木：うーん、何となく。

渡辺：小学校の時、いい先生にめぐりあったから。

中村：おれは先生にならん。企業に就職する。

田中：どうしてここに来たのか。

中村：うーん...

#26

大学生がガールフレンドと電話で。

田中：もう別れた方がいいかもしれん。

((沈黙))

山本：なにそれ。

田中：だって離れたらさみしいもん。

((沈黙))

山本：そっかあ。

((沈黙))

田中：離れてさみしいより近くに好きな人作った
方がいい。

((沈黙))

山本：そっかあ。

((沈黙))

田中：ゴメンなあ。

((沈黙))

山本：いいや。

((沈黙))

田中：んじゃあ。

((沈黙))

山本：うん。じゃあね。

((沈黙))

#27

大学生の友達同士が。

田中：アキちゃんも一人暮らしーよ！

山本：無理さあー。

田中：なん言いいん。4年間も寮におったらダセ
ーばい。

山本：... でも一、お姉ちゃんも大学やっけん無
理やもん、お金んなか。

田中：4年間も寮におる人見てーん。うちの階の
4年生とか階の炊事場でかっぱう着きて、
せん切りしよんばい。ほとんどおばさんて
ー。

山本：そやんなりとーないけど...。しょうがなか
とさ。できるとしても4年生からばい。う
ーん。一人暮らししたかー。

#28

大学生が食堂で昼食を食べながら。

田中：ねえねえ、あの人の顔いいと思わん？

山本・鈴木：どれどれっ、えーっどれさー。

田中：あそこの席にすわっとる、あの人。

山本・鈴木：ええーっなんか、いやあ。

田中：えっ、でも、さっぱり涼しそうな顔やん。

鈴木：うそーあつくるしい顔やん。

山本：うんうん。

田中：いや、あつくるしいっていうのは、阿部ち
ゃんとか、ああゆう顔を言うんばい。

山本：そりゃあ、私も好かんけど、あの人もなん
かあつそうよ。

田中：そうかなあ、さっぱりしとると思うけど。

山本・鈴木：いや、あれはちょっとあつくるしい
ばい。

付録 2. 実験結果の表

表 1. 学生の付けた名前

質問 1. 名前・黙読・自由回答・福岡教育大 (人数45)
 与えた例：話し合い、口論 (けんか)、議論、相談

番号	議論	種類	1位	2位	3位	その他*
1	33	10	議論 (33)	話し合い (3)	口論 (2)**	7
2	2	6	相談 (30)	話し合い (10)	議論 (2)	3
3	14	7	口論 (23)	議論 (14)	話し合い (4)	4
4	31	6	議論 (31)	話し合い (7)	討論 (4)	3
5	15	10	議論 (15)	話し合い (11)	相談 (8)	11
6	3	10	相談 (20)	話し合い (13)	議論 (3)	9
7	22	13	議論 (22)	話し合い (8)	推理 (3)	12
8	3	15	話し合い (9)	口論 (12)	相談 (5)	16
9	8	11	口論 (12)	話し合い (10)	議論 (8)	15
10	19	14	議論 (19)	話し合い (6)	討論 (4)	16
11	1	18	議論 (14)	話し合い (7)	口論 (5)	19
12	14	16	議論 (14)	話し合い (13)	雑談 (2)	16
13	10	15	話し合い (17)	議論 (10)	意見交換 (3)	15
14	0	10	口論 (38)	***	***	7
15	12	6	口論 (27)	議論 (12)	討論 (3)	3
16	12	16	議論 (12)	雑談 (6)	話し合い (4)	23
17	15	12	議論 (16)	話し合い (11)	世間話 (5)	13
18	11	13	話し合い (16)	議論 (11)	相談 (4)	14
19	2	7	説得 (24)	相談 (9)	話し合い (7)	3
20	0	4	説得 (19)	相談 (16)	話し合い (9)	1
21	6	8	話し合い (14)	相談 (14)	説得 (6)	4
22	2	12	相談 (14)	話し合い (13)	雑談 (4)	12
23	3	10	話し合い (17)	相談 (12)	議論 (3)	13
24	12	17	議論 (12)	話し合い (8)	陰口 (6)	19
25	16	13	議論 (16)	話し合い (13)	相談 (4)	12
26	2	15	話し合い (15)	別れ話 (12)	相談 (3)	15
27	2	13	話し合い (18)	相談 (7)	説得 (4)	16
28	11	17	議論 (11)	話し合い (5)	雑談 (5)	24

* 「議論」は含まない。無回答を含む。

** 「口論」には「けんか」を含む。以下の項目でも同じ。

*** 2名以上の回答があった名前のみを表示。

表 2. 学生の付けた名前

質問 2. 名前・黙読・自由回答・福岡教育大学 (人数35)

与えた例: 口論、相談、討論、話し合い

番号	議論	種類	1 位	2 位	3 位	その他*
1	24	8	討論 (24)	口論 (4)	話し合い (2)	5
2	0	5	相談 (26)	話し合い (6)	**	3
3	5	6	口論 (24)	討論 (5)	話し合い (3)	3
4	25	7	討論 (25)	話し合い (4)	世間話 (2)	4
5	6	8	相談 (10)	話し合い (10)	討論 (6)	9
6	1	12	話し合い (12)	相談 (10)	**	12
7	13	12	討論 (13)	話し合い (5)	雑談 (3)	14
8	4	16	口論 (8)	討論 (4)	話し合い (4)	19
9	1	9	口論 (15)	話し合い (8)	命令 (3)	8
10	11	14	討論 (11)	雑談 (4)	話し合い (2)	18
11	11	14	討論 (11)	口論 (5)	悪口 (3)	16
12	12	13	討論 (12)	話し合い (3)	口論 (3)	17
13	6	16	話し合い (7)	討論 (6)	雑談 (4)	18
14	0	5	口論 (31)	**	**	4
15	4	5	口論 (26)	討論 (4)	けんか (3)	2
16	8	15	討論 (8)	話し合い (4)	雑談 (3)	20
17	15	10	討論 (15)	世間話 (6)	話し合い (4)	10
18	8	14	話し合い (9)	討論 (8)	相談 (4)	14
19	3	8	説得 (15)	話し合い (6)	相談 (4)	7
20	1	6	説得 (13)	相談 (10)	話し合い (9)	2
21	1	9	話し合い (16)	相談 (5)	説得 (4)	9
22	0	14	相談 (12)	話し合い (5)	世間話 (4)	14
23	0	9	相談 (18)	話し合い (7)	雑談 (2)	8
24	10	16	討論 (10)	陰口 (5)	話し合い (3)	17
25	11	15	討論 (11)	相談 (4)	話し合い (4)	16
26	0	14	話し合い (9)	別れ話 (8)	相談 (5)	13
27	1	16	相談 (5)	話し合い (4)	勧誘 (4)	21
28	6	17	討論 (6)	うわさ話 (4)	雑談 (3)	22

* 「議論」は含まない。無回答を含む。

** 2名以上の回答があった名前のみを表示。

表3. 学生の付けた名前

質問3. 名前・黙読・自由回答・九州大学(人数49)

与えた例: 口論、相談、雑談、話し合い

番号	議論	種類	1位	2位	3位	その他*
1	0	9	雑談(26)	口論(10)	討論(3)	10
2	0	5	相談(33)	話し合い(12)	面談(2)	2
3	1	7	口論(39)	話し合い(4)	**	6
4	5	6	話し合い(15)	雑談(12)	討論(11)	11
5	4	11	話し合い(15)	相談(11)	議論(4)	19
6	0	3	雑談(33)	相談(9)	話し合い(7)	0
7	2	7	雑談(35)	口論(3)	推理(3)	6
8	1	10	雑談(13)	話し合い(12)	口論(11)	13
9	0	9	口論(21)	話し合い(13)	説得(5)	10
10	4	8	雑談(31)	主張(5)	議論(4)	9
11	1	11	雑談(27)	口論(11)	話し合い(2)	8
12	0	5	雑談(40)	話し合い(3)	批評(2)	4
13	1	10	雑談(34)	話し合い(4)	助言(3)	7
14	0	8	口論(40)	けんか(2)	小言(2)	5
15	0	7	口論(41)	議論(2)	討論(2)	4
16	0	5	雑談(42)	口論(3)	**	4
17	3	8	雑談(27)	話し合い(10)	討論(4)	5
18	5	12	雑談(14)	話し合い(12)	議論(5)	18
19	0	9	説得(19)	相談(11)	話し合い(11)	8
20	0	6	相談(22)	説得(15)	話し合い(9)	3
21	1	7	話し合い(24)	相談(10)	説得(8)	6
22	0	6	雑談(21)	相談(13)	話し合い(10)	5
23	0	5	話し合い(15)	雑談(15)	相談(14)	5
24	5	10	雑談(21)	話し合い(7)	議論(5)	16
25	1	7	雑談(28)	話し合い(9)	相談(3)	8
26	0	10	話し合い(18)	別れ話(16)	相談(4)	11
27	0	6	雑談(41)	話し合い(2)	勧誘(2)	4
28	0	10	雑談(37)	口論(3)	**	9

* 「議論」は含まない。無回答を含む。

** 2名以上の回答があった名前のみを表示。

表4. 「議論・討論」と判断した学生数・百分率・特徴

会 話 文 番 号	質問1 福教大 黙読 自由回答 議論 (N=45)		質問2 福教大 黙読 自由回答 討論 (N=35)		質問3 福教大 黙読 自由回答 例なし (N=49)		質問4 福教大 黙読 ○×回答 (N=27)		質問4 九州大 黙読 ○×回答 (N=46)		質問5 福教大 聴取 ○×回答 (N=60)		質 問 6 福教大 黙読 ○×回答 (N=11)								
	回 答 数	%	回 答 数	%	回 答 数	%	回 答 数	%	回 答 数	%	回 答 数	%	a 話 題	b 意 見	c 理 由	d 対 立	e 対 立 残	f 利 害 対	g 利 害 残	h 感 情	i 対 等
1	33	73.3	24	68.6	0	0.0	22	81.5	40	87.0	49	81.7	2	11	11	11	11	2	1	5	10
2	2	4.4	0	0.0	0	0.0	2	7.4	13	28.3	2	3.3	8	10	4	6	3	3	1	0	0
3	14	31.1	5	14.3	1	2	14	51.9	22	47.8	25	41.7	0	2	5	9	8	2	2	7	11
4	31	68.9	25	71.4	5	10.2	22	81.5	34	73.9	40	66.7	8	6	7	5	3	0	0	0	3
5	15	33.3	6	17.1	4	8.2	6	22.2	15	32.6	6	10.0	6	8	6	5	1	1	1	1	1
6	3	6.7	1	2.9	0	0.0	2	7.4	8	17.4	3	5.0	4	7	5	0	0	0	0	0	10
7	22	48.9	13	37.1	2	4.1	20	74.1	27	58.7	36	60.0	0	11	3	10	8	0	0	2	11
8	3	6.7	4	11.4	1	2.0	4	14.8	17	37.0	6	10.0	0	10	2	11	4	2	2	5	10
9	8	17.8	1	2.9	0	0.0	8	29.6	15	32.6	6	10.0	7	7	3	9	8	5	4	7	1
10	19	42.2	11	31.4	4	8.2	8	29.6	11	23.9	40	66.7	0	11	0	4	3	2	1	1	11
11	14	31.1	11	31.4	1	2.0	16	59.3	26	56.5	30	50.0	1	9	7	7	5	1	1	8	4
12	15	33.3	12	34.3	0	0.0	9	33.3	18	39.1	9	15.0	0	8	0	4	2	0	0	3	11
13	10	22.2	6	17.1	1	2.0	5	18.5	13	28.3	20	33.3	0	6	1	3	0	1	1	0	11
14	0	0.0	0	0.0	0	0.0	12	44.4	25	54.3	15	25.0	7	11	10	11	10	3	2	9	0
15	12	26.7	4	11.4	0	0.0	16	59.3	31	67.4	33	55.0	6	11	7	11	10	6	5	11	9
16	12	26.7	8	22.9	0	0.0	15	55.6	30	65.2	29	48.3	0	11	6	11	11	0	0	4	11
17	15	33.3	15	42.9	3	6.1	8	29.6	10	21.7	32	53.3	8	9	2	0	0	0	0	0	11
18	11	24.4	8	22.9	5	10.2	16	59.3	29	63.0	42	70.0	6	11	11	1	0	2	1	7	11
19	2	4.4	3	8.6	0	0.0	9	33.3	16	34.8	13	21.7	7	10	7	11	3	4	3	11	9
20	0	0.0	1	2.9	0	0.0	13	48.1	23	50.0	14	23.3	5	10	9	9	3	6	5	5	8
21	6	13.3	1	2.9	1	2.0	9	33.3	22	47.8	11	18.3	8	11	7	11	0	4	1	3	2
22	2	4.4	0	0.0	0	0.0	2	7.4	6	13.0	5	8.3	1	8	4	1	0	1	0	9	10
23	3	6.7	0	0.0	0	0.0	10	37.0	7	15.2	4	6.7	0	8	3	0	0	0	0	6	11
24	12	26.7	10	28.6	5	10.2	6	22.2	19	41.3	21	35.0	3	10	5	0	0	0	0	2	11
25	16	35.6	11	31.4	1	2.0	9	33.3	21	45.7	21	35.0	5	9	3	1	0	1	0	1	9
26	2	4.4	0	0.0	0	0.0	1	3.7	4	8.7	2	3.3	7	10	8	3	0	3	1	3	9
27	2	4.4	1	2.9	0	0.0	3	11.1	12	26.1	9	15.0	0	10	8	3	0	1	0	3	11
28	11	24.4	6	17.1	0	0.0	21	77.8	33	71.7	38	63.3	0	11	2	9	6	0	0	2	11

注1 太字は「議論・討論」と認識されやすかった会話文。

注2 網掛けは「議論・討論」とほとんど認識されなかった会話文。

What is “Argument” for Japanese University Students?

Narahiko INOUE

Everyday language use in Japanese involves “*giron*” (commonly translated as “argument”). People who share Japanese language and culture are able to distinguish it from other speech events. This is evidenced in such statements as “I was talking with Tanaka and we ended up with *giron* (argument)” and “The talk given by Kato and Yamamoto is not qualified for *giron* (argument).” This study investigated Japanese university students’ concepts of “*giron*” based on the data obtained from surveys and experiments about their everyday language behaviors. For the sake of comparison with another culture, reference is made to several studies to characterize “argument” in American daily life (e.g., Jackson, Jacobs, O’Keefe, and Trapp).